

桜蔭俳話会

第一一八回通信句会 投句一覽(平成二十七年夏)

選句数は五句です。特選一句には○を付けてください。

締切り・八月三十日(日)

- 1 旅かばん開けつ放しや帰省の子
- 2 眩しさの八月六日空あおぐ
- 3 英霊の妻の百歳終戦日
- 4 夏病棟ひとつの命遠さかる
- 5 片蔭を選び風道を選びて来し
- 6 梅雨飽きて午後の陽射しに鳩三声
- 7 百日紅長寿遺伝子目覚めをり
- 8 風鈴や寝むれる程に寝がゑりを
- 9 一吹の風抜けて行く立夏かな
- 10 一段とつばの広さや夏帽子
- 11 白猫の長々と伏す竹落葉
- 12 万緑の山もマグマを秘めたるか
- 13 朝早き青空続く夏深し
- 14 夜の介護祭囃子の遠音かな
- 15 沖繩忌指を穿るる星の砂
- 16 霊場に老鶯の遠音かな
- 17 喧しいその鳴き声はくつわ虫
- 18 日盛りに蝉の鳴き声追い求め
- 19 単線の只見線内冷酒売り
- 20 撰花歪みの歩き膝の痛
- 21 熱帯夜乱歩仕掛けし頁繰る
- 22 臥す母の視界に泳ぐこいのぼり
- 23 逃げまどふ蟻の一匹朝採り菜
- 24 炎天や身に漲りしアミノ酸
- 25 瞬間の静もり追山笠早きはじむ
- 26 闇を来て闇へ帰りぬ風の盆
- 27 昭和初期橋のかかりし夏の川
- 28 つきまとう一匹の蚊を見失う
- 29 可も不可もなしは嘘ですソーダ水
- 30 百合に置く朝露の果思ひけり
- 31 炎昼や時間をかけし風呂掃除
- 32 打水の一筋そつと風通る
- 33 夏火花声をあげつつかき氷
- 34 朝掘りの筍届く雨上がり
- 35 文字三行読みて落ちたる昼寝かな

- 36 日傘でもかけてあげたや道祖神
- 37 夏足袋や正客の座をゆずりあう
- 38 乱舞せる光り飲み込む夏の闇
- 39 満月や年寄りと見る夏祭
- 40 男らの声あふれ来る夏神輿
- 41 浅草やポニーテールの藍浴衣
- 42 寺辭してネクタイは手に油照
- 43 暑過ぎて異様な静けさ昼の街
- 44 鳥数羽点となりしや大夕焼け
- 45 夏霧や網を繕う漁夫一人
- 46 山はなが蝉なく一途聞き入りぬ
- 47 片蔭を拾い拾いて友の家
- 48 差し込みし応援席の西日かな
- 49 極楽の余り風欲し熱帯夜
- 50 書き置きは賢治を真似て草取へ
- 51 甲斐の富士バックミラーに雲の峰
- 52 夏祭り最後の締めは鉢洗い
- 53 全身を森にして待つ遠郭公
- 54 蝸牛はじめに戻る五輪かな
- 55 夏の兄背中固定しリハビリか
- 56 緑増す葉陰にそつと百日紅
- 57 癒ゆるなき眼細めし炎天下
- 58 夏蝶の高く飛びをり地熱かな
- 59 たつぶりと水打ち終へてお茶の刻
- 60 灯火や寂れし家の白牡丹

【事務局からお知らせ】

○九月句会

・九月二十七日(日)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)。

○十月句会

・十月三十一日(土)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)。